

よく晴れた秋の夜でした。照りかがやく満月の光が、そつとさしこんでいました。

「十五夜さん、ありがとうございます。」

あお白い月光げっこうに照らされた伊策の顔は、おさない日にガマ岩を見に行つて、足をふみはずしたときに見た夢のように、やすらかに語りかけているようでした。

伊策がいらないと主張した割り算ざん九九くは、現在、ほとんどその姿を消してしまいました。そして、伊策の改良した四つだまのそろばんは、昔から使われていた五つだまを追放ついほうして、今では全国どこでも使われています。